



鎌倉楽しむ会 第30回例会



「梶原一族」栄枯盛衰の地と 今の鎌倉山をハイキング

- ・800年前の鎌倉幕府創立の時代、源頼朝の信頼を集め、能吏として、また武人としても大活躍し、栄華を謳歌していた「梶原景時・景季」一族。そして、一転して頼朝なき後には、自らの讒言により御家人66人の連署状を以って弾劾され、駿河の地で一族は滅亡したが、鎌倉には「梶原」の地名は今に続いて存在する。
- ・昭和の怪物「菅原通済翁」は、江ノ電経営に参画し、大船から江の島迄の有料道路を開発し（現在、この道路に沿って湘南モノレールが走っている）、さらに、周辺の山を高級住宅地に開発し「鎌倉山」の名付け親となった。この鎌倉山の一部をハイキングし、「榎亭（らいてい）」の庭園鑑賞とランチを楽しみます。

1、等覚寺



- ・休場山弥勒院等覚寺。高野山真言宗である。

応永年間（1394－1428）に秀恵僧都を開山として創建されたと伝わる。本尊は木造不動明王立像で、他には寛文2年（1662）造像の木造弥勒菩薩立像や地藏菩薩坐像などが安置されている。

地藏菩薩は「出世子育て地藏尊」として江戸時代から広く信仰されている。

境内右手の大師堂には石造弘法大師像が安置され「相模国準四国八十八箇所第21番札所」。また、新田義貞の鎌倉攻めに戦没した者の供養塔と言われる五輪塔、宝篋印塔など石塔類がある。

2、大慶寺



- ・靈照山大慶寺 臨済宗円覚寺派。開山は大休正念（仏源禅師）、開基は長井光禄という。本尊は釈迦如来坐像（市重文）

開山の大休正念（1215-89）は文永6年（1269）に北条時宗の招きを受けて中国・宋より来朝し、寿福寺、建長寺に歴住ののち、弘安7年（1284）に円覚寺二世住持となり、正応2年（1289）没した。

元享3年（1323）第11代執権北条貞時の13回忌法要供養には僧侶83名が参加するほどの大寺であった。

永正9年（1512）伊勢宗瑞（北条早雲）が鎌倉に乱入した際、三浦氏との合戦に巻き込まれ、その戦火ですべて焼失した。その後再建したが、永禄4年（1561）には長尾景虎（上杉謙信）の乱入があり、またも破壊され荒廃したが、塔頭五院のうち方外庵だけが残し「大慶寺」として復興し、円覚寺の末寺となった。

茅葺の四脚門や樹齢七百年と伝わる柏慎二株は古寺の風趣が漂う。

3、駒形神社



・寺分の鎮守。祭神は駒形大神だが、地元では古くから邇邇芸命（にぎのみこと）を祀ると伝わる。本殿は天保 14 年（1843）に再建されたものである。

農業の守護神として崇められ、治承年間（1177-82）この地は大庭景親（おおばかげちか）の所領であったので、天候不順の時には代参を遣わして祈願したと伝わる。

社殿内には木造の馬と中国風の木造人形七体を蔵するという。

境内のやぐらに文政 5 年（1822）造りの弁財天像が祀られている。その一角には富士信仰（富士山をご神体とみなす山岳信仰）の名残を示す富士浅間神社の角塔も立っている。

4、東光寺



・天照山薬王院東光寺
高野山真言宗。永享 3 年（1431）高野山慈眼院の法印靈範が隠居所して中興したと伝わる。正面に大師堂があり弘法大師の石像が祀られている。本堂には、平安時代の智証作と伝わる木造不動明王立像が祀られている。

5、御霊神社



・文政 4 年（1821）建立の石鳥居をくぐり石段を上ると拝殿と本殿がある。梶原の鎮守。社殿では建久元年（1190）の創建とする。

御祭神は、後三年の役で活躍した、鎌倉権五郎景政。梶原景時の祖である。境内には露出した岩肌に五輪塔や庚申塔などの石塔が多数ある。建武元年（1334）の石塔が最も古いが由来などは明らかでないという。

6、鎌倉古道

・御霊神社を出て深沢中学校の四つ角を過ぎて右に曲がる道は「鎌倉上の道」です。左側の山裾に古くからの家々が並び、道路に面した庭先には江戸時代の正面金剛や庚申塔などが古道の面影を伝えている。

7、常磐山地蔵尊



・花崗岩の台石上に地蔵菩薩坐像が安置されている。その両側に二基の五輪塔と宝篋印塔、層塔一基が据えられている。台石の地下は半地下状になっていて中には沢山の石塔が納められている。この付近を開発した時に出てきたものを祀っているという。

8、しのぶ塚



・梶原景時の長子・梶原源太景季（かげすえ）の妻「信夫」の塚と伝えられる。佛行寺にある夫の源太塚を遥かに望む形になって立っています。

9、榎亭庭園



・入口の門は寛永 19 年（1642）に西御門太平寺跡に創建された寿延山高松寺（こうしょうじ）を移築したもの。本館は横浜の養蚕農家の建物を移築。その玄関は関東大震災で倒壊した青蓮寺の玄関の古材を補修して移築したものである。

・庭園は回遊路があり、自然の傾斜を生かした 3 万坪の広大な敷地に石仏、石塔が据えられ、竹林や梅林、また季節の草花を鑑賞しながら散策できます。

10、鎌倉山記



・承平・天慶の乱に平貞盛が平将門を滅ぼして以来平氏の威勢が東国に及び、その孫平直方は幾多の荘園を領有した。のち源頼義が相模守に任じられ、直方の婿となって鎌倉郷は源氏の東国経営の根拠地となり、その後頼朝が幕府を開くに至るまでの鎌倉の歴史を大きく述べ、つづけて昭和3年（1928）7月27日菅原通済氏が同志と協力して鎌倉山を開発し、道路を通して住宅地としたこと等々、六百五十余字で記しています。

11、夫婦池公園



・夫婦池公園は、鎌倉山の山合いにある二つの池（上池・下池）と桜が有名。豊かな自然が残されており、ヨシの生息地、イワボタン、ツリフネソウ、ハンゲショウなどの貴重な植物が自生し、カワセミ等も生息する場所として鎌倉でも隠れ家的な公園となっています。貴重な野鳥・昆虫・草花の環境保全を考えて自然素材を使用し整備し、平成21年4月にオープンしました。

12、三島神社



・笛田の鎮守。大庭景親が再建したとされている。景親は源頼朝挙兵の時の平氏の大將を務めた武将。祭神は大山津見命。

もとは谷ひとつ隔てた宮ヶ崎という地にあったが「水上に祀れ」との神託で、笛田川上流の萩郷に遷され、現在地に遷座されたという。社のそばに湧く泉が田を潤したことから、村人に篤く信仰されたと云われている。

13、佛行寺と源太塚

源太塚



池泉庭園

・佛行寺は仏性院日秀によって明応4年（1495）開かれたと伝わる日蓮宗のお寺です。薬医門様式の山門に志納百円を納めて境内に入ると正面が本堂である。非常に手入れが良くすがすがしいお寺です。本尊は十界互具曼荼羅として祀られている。本堂の裏には手入れの行届いた美しい池泉庭園があり、5月のつつじ、続いて夏にかけての池の睡蓮が見事である。・本堂左奥に石段があり、石碑が並ぶ崖の上に昇ると墓

地に出る。さらに上ると、梶原源太景季の片腕が埋められているという源太塚がある。直径5mほどの円形に石を積み土を盛ったものです。

景季は鎌倉幕府創立には大変な武勲をたて、頼朝に取り立てられたが、頼朝の死後、父・景時と共に鎌倉を追われ駿河で討ち死にした。その死を悲しんだ妻の信夫はこの辺りで自害して果てた。信夫の霊は毎夜夫を偲んで泣き続け、その声に胸をしめつけられた村人が、信夫の霊を慰めようと祠を建て、それが佛行寺になったようです。

完